

|         |  |         |         |
|---------|--|---------|---------|
| 氏名      | 三好輝行   |         |         |
| 学位の種類   | 医学博士   |         |         |
| 学位授与番号  | 乙第1789号  |         |         |
| 学位授与の日付 | 昭和62年6月30日   |         |         |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）   |         |         |
| 学位論文題目  | 脈絡膜循環に及ぼす Nifedipine の影響<br>第1報 成熟家兎における脈絡膜血流量の変化<br>第2報 猿眼における脈絡膜血流量の変化 |         |         |
| 論文審査委員  | 教授 小倉義郎  | 教授 中山 沃 | 教授 佐伯清美 |

### 学位論文内容の要旨

脈絡膜の循環障害に起因すると考えられる数多くの疾患に対する治療法の糸口を見いだす目的で、 $\text{Ca}^{2+}$ 拮抗剤である nifedipine が脈絡膜循環に及ぼす影響を家兎眼と猿眼において水素クリアランス法を用いて検索した。

家兎眼においては全身麻酔群、局所麻酔群ともに nifedipine 20  $\mu\text{g}/\text{kg}$ 、40  $\mu\text{g}/\text{kg}$  投与により脈絡膜組織血流量の増加をみた。その増加の程度は容量依存性であった。血流量の増加は全身麻酔群よりも局所麻酔群の方が大きく、局所麻酔群では血流量は投与直後より増加し、とくに40  $\mu\text{g}/\text{kg}$  投与群では投与後90-140分後において最大に増加する傾向を認めた。本実験においては局所麻酔群の方が全身麻酔群よりも nifedipine の効果をより正確に反映していると考えられた。

猿眼においては血流量は nifedipine 投与後30分まではあまり変化がみられなかったが、投与後30-75分にかけて増加し、投与後180分においても血流量の増加は維持されていた。

以上、家兎眼と猿眼において脈絡膜組織血流量は、nifedipine 投与により増加した。眼組織のうちでも豊富な血流が必要とされる脈絡膜の血流量を増加させることにより nifedipine は脈絡膜循環障害が原因または進行に関与していると思われる疾患に試みてみるべき薬剤であると考えた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は眼科領域における脈絡膜循環に及ぼす Nifedipine の影響について実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった本薬剤の脈絡膜組織血流量増加作用につい

て重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。